

船舶事故調査報告書

平成23年3月24日
 運輸安全委員会（海事専門部会）議決
 委員 横山 鐵 男（部会長）
 委員 山本 哲 也
 委員 石川 敏 行

事故種類	転覆
発生日時	平成22年4月29日（木、祝日） 05時00分ごろ
発生場所	茨城県ひたちなか市那珂湊港南防波堤灯台から真方位217° 340m付近（概位 北緯36° 20.1′ 東経140° 36.0′）
事故調査の経過	平成22年4月30日、本事故の調査を担当する主管調査官（横浜事務所）ほか1人の地方事故調査官を指名した。 原因関係者としての船長からの意見聴取は、本人が本事故で死亡したため行わなかった。
事実情報 船種船名、総トン数 船舶番号、船舶所有者等 L×B×D、船質 機関、出力、進水等 乗組員等に関する情報	プレジャーヨット ^{はやて} 颯、5トン未満（長さ7.05m） 235-11088茨城、個人所有 7.05m（Lr）×2.65m×1.30m、FRP ディーゼル機関、3.31kW、昭和55年4月 船長 男性 59歳 一級小型船舶操縦士 免許登録日 平成16年3月18日 免許証交付日 平成21年3月16日 （平成26年3月17日まで有効）
死傷者等	死亡 1人（船長）
損傷	全損
事故の経過	本船は、船長が1人で乗船し、友人1人（以下「同乗者」という。）を乗せ、平成22年4月29日04時30分ごろ、茨城県水戸市所在の那珂川河口の上流にあるマリーナを出航し、宮城県女川町女川港に向かった。 本船は、船長が操縦して那珂川を下流に向けて航行し、05時00分ごろ、那珂川河口付近に達したが、磯波が立っていたことから、引き返すために反転しようとしたところ、左舷から波を受けて傾斜し、船長が船外に投げ出された。 船長は、船尾梯子につかまっていたが、本船は、再度の波を受け、転覆した。 本船は、その後に復原し、同乗者は、船長が落水していることに気付いたが、濃霧で次第に姿が見えなくなったので、キャビンに避難した。 本船は、05時40分ごろ茨城県大洗町大洗海岸に漂着し、05時50分ごろ、同乗者が付近の民家から海上保安庁に通報した。 船長は、10時20分ごろ大洗港南防波堤灯台から真方位124° 650m付近で海上保安庁のヘリコプターに救助され、死亡が確認された。 死因は、脳内出血の疑いと検案された。

<p>気象・海象</p>	<p>気象：天気 曇り、風向 南南西、風力 4、視程 約100m、気温 約12℃ 海象：うねりの方向 東南東、うねりの高さ 約1m、潮汐 下げ潮の初期、水温 約10℃ 本事故発生時、関東海域全域には海上強風警報が、関東海域北部には海上濃霧警報が発表されていた。</p>	
<p>その他の事項</p>	<p>船長は、自宅を出る際、体調不良を訴えていなかった。 船長は、発見時、救命胴衣を着用していた。 那珂川河口付近は、磯波が発生し、不規則な波が発生することがある水域であった。</p>	
<p>分析</p>	<p>乗組員等の関与 船体・機関等の関与 気象・海象の関与 判明した事項の解析</p>	<p>不明 不明 あり 本船は、那珂川河口付近を航行中、磯波が立っていたことから、引き返すために反転しようとしたとき、左舷から波を受けて傾斜し、再び波を受けて転覆した可能性があると考えられる。 船長は、本船が傾斜したときに船外に投げ出され、転覆したときに落水した可能性があると考えられる。 船長は、船外に投げ出されたとき、又は落水したときに脳内出血を発症した可能性があると考えられるが、発症の状況を明らかにすることはできなかった。 船長の死因は、脳内出血の疑いと検案された。</p>
<p>原因</p>	<p>本事故は、海上強風警報が発表されている状況下、本船が、那珂川河口付近を航行中、引き返すために反転しようとした際、左舷から波を受けて傾斜し、再び波を受けたため、転覆したことにより発生した可能性があると考えられる。</p>	